

第38回全国選抜高校テニス大会レポート

全国高等学校体育連盟テニス専門部

常任委員 内藤 美明



《 開会式 》

第38回全国選抜高校テニス大会が、平成28年3月20日に始まりました。今大会も昨年同様、全ての出場校のNo.1の選手が個人戦に出場して、U.S.オープン出場を目指して個人戦を戦いました。そして、会場も昨年同様、個人戦の初日は、春日公園テニスコートを使用して行いましたが、二日目からは団体戦と同じ会場で行われました。

開会式では選手を代表して、高知県土佐高等学校男子テニス部、白石廉太郎主将と佐賀県立鳥栖商業高等学校女子テニス部、佐藤成美主将が「私たちは、切磋琢磨してきた高校テニスの仲間たちの代表として、その責任と誇りを胸に、今、ここに立っています。この大会は、東京オリンピック世代である私たちの輝く未来への挑戦です。これまで、仲間たちと共に同じ目標を掲げ、日々努力を続けてきました。それを支えてくださったすべての方々に感謝し、勇気と希望をこの一球に込め、最後の一打まで、精一杯プレーすることを誓います。」と爽やかに宣誓しました。

《 団体戦 》





男子ベスト8は次の学校。相生学院（兵庫）、名古屋経大市邨（愛知）、湘南工大附（神奈川）、清風（大阪）、大成（東京）、西宮甲英（兵庫）、高松北（香川）、柳川（福岡）。近畿3校、関東2校、東海1校、四国1校、九州1校。シード校の相生学院、大成、柳川、そして、シード校の名古屋に2回戦で勝利した清風に準々決勝で勝利した湘南工大附がベスト4まで勝ち上りました。

準決勝を3-2の大接戦で決勝に勝ち上がってきた湘南工大附と柳川の決勝戦は、室内コートで行われました。シングルス1とダブルス1は、湘南工大附。シングルス2とダブルス2は柳川。勝負の行方はシングルス3にかかりました。シングルス1以外は全てファイナルセットにもつれ込む大接戦。柳川のシングルス3がファイナルセット2-2で足が痙攣？しかし、1球入魂で打ち込んでいましたが、足が思うように動かず、6-2。湘南工大附の6年ぶり7回目の優勝が決まりました。



女子ベスト8は次の学校。早稲田実（東京）、野田学園（山口）、東京学館船橋（千葉）、相生学院（兵庫）、楣山女学園（愛知）、鳳凰（鹿児島）、浦和学院（埼玉）、柳川（福岡）。関東3校、九州2校、東海1校、近畿1校、中国1校。ベスト4に進出したのは、シード校の相生学院、楣山女学園、そして、シード校の早稲田実に準々決勝で勝利した野田学園。そしてもう1つは、シード校の沖縄尚学（沖縄）が初戦で敗退したため、大混戦を勝ち抜いてきた浦和学院でした。

女子決勝は、野田学園と相山女学園。16シードから決勝に勝ち上がり勢いに乗る野田学園が決勝戦でもその勢いは衰えず、3-0で念願の初優勝に輝きました。



《 個人戦 》



今大会も個人戦は、団体戦に出場しているチームのシングルス No.1 の選手全員が出場して行われました。個人戦初日は春日公園で行われました。2日目からは、団体戦と同一会場で行われました。

男子ベスト6は次の選手。野口莉央（湘南工大附）、今村昌倫（清風）、宮本大勢（秀明八千代）、蓮見亮登（東京学館浦安）、菊地裕太（相生学院）、山尾玲貴（柳川）。決勝戦は、今村対菊地。激しいストロークの応酬でファーストセットはタイブレークで菊地。しかし、セカンドセットは6-0で今村。ファイナルセットを6-4で菊地が競り勝ち優勝を決めました。

女子ベスト6は次の選手。山藤真帆（野田学園）、松田美咲（浦和学院）、清水映里（山村学園）、下地奈緒（沖縄尚学）、堺愛結（相生学院）、伊達摩絵（相山女学園）。決勝戦は、昨年と同じく予選1回戦から勝ち上がってきた清水対堺。激しいストローク戦を制した清水が優勝。そして、2年連続でUSオープンJrの出場を決めました。

《 終わりに 》

昨年の第37回大会に引き続き、第38回大会も団体戦の出場校のシングルス No.1の選手が全員、個人戦に出場しました。そして、団体戦において、1・2回戦は1セットマッチ、3回戦・準々決勝は8ゲームズプロセット、準決勝・決勝は3セットマッチに変更になりました。日程も初日に1回戦、2日目に2回戦、3日目に3回戦と準々決勝、4日目に準決勝、5日目に決勝戦が行われるよう変更になりました。そして、昨年まで地元の高校生補助員の生徒達に行っていただいていた審判から日本女子テニス連盟福岡県支部、佐賀県支部の方々によるSCUシステムに変更になるなど、大会がよりグローバルな大会に成長していく姿がうかがわれました。

また、今大会も、団体戦も個人戦もどのチーム、誰が優勝するのか全く解らない大混戦でした。連日、どの試合も熱い感動を見る者に与えてくれました。そして、明日からは次の戦い、島根県松江市で開催される「2016 情熱疾走 中国総体」「美しく咲け 君の笑顔と 努力の華」のスローガンのもとでの熱い戦いを期待して、大会レポートを終わります。

